

ひろしまの地域と暮らし



2023年
10月
NO.475

芸備線の維持・存続へ —行政・関係団体・住民が一体となった運動— 谷口 たかあき-----	1
二葉山トンネル、何が問題か？ 二葉山トンネルを考える市民の会代表 越智 秀二-----	5
月間ニュース（23年8月分）-----	9
10月の行事-----	11
事務局雑感-----	11

広島自治体
問題研究所

〒730-0051 広島市中区大手町5丁目16-18 電話(082)241-1713 FAX(082)298-2304
HP <http://kyodo-support.com/jitiken/> Eメール hjitiken@urban.ne.jp
振替 01380-9-12876 毎月20日発行 定価 300円

芸備線の維持・存続へ

—行政・関係団体・住民が一体となった運動—

谷口 たかあき

1. 庄原市とJR芸備線の紹介

庄原市は、中国山地のど真ん中、岡山県、鳥取県、島根県と県境で接する関西以西では最大の面積の1,246km²（全国の市町村で13番目）に、32,000人余りが住んでいます。中国自動車道のインターチェンジが2か所、尾道松江道のインターチェンジが2か所あり、一般国道も4本走っています。

JR芸備線は、岡山県新見市の備中神代駅から広島駅に至る159.1kmの路線で44駅あります。そのうち庄原市内だけで約三分の一の14駅あり、島根県松江市の宍道駅に至る木次線の駅も一つあります。広い市域だけに、芸備線の役割は特別に大きく、通院や買い物など日常生活に欠かせないと

ともに、特に庄原市内にある4校の広島県県立高校の生徒の重要な通学手段になっています。実際、今年の5月の連休明けの午前7時半、備後庄原駅に立ってみると、高校生（一部中学生を含む）の乗降者数は85人。備後庄原駅の職員によると、一つ手前の三日市駅で乗降する庄原格致高校の生徒が20人から30人います。備後西城駅で平日乗降する生徒も35人います。毎日、実数で140人前後の高校生が利用することは、小規模高校が多い地域でのJRの存在意義は計り知れないことを示しています。

2. 芸備線利用促進の取り組み

（1）市民参加の事業

・カープ号（ラッピングトレイン）

市民参加の利用促進、芸備線存続の取り組みとして、象徴的な「カープ号」（ラッピングトレイン）をまず紹介します。これは、庄原市の住民有志による「芸備線にカープ号を走らす会」が企画。寄付を募り、たる募金を設置するなどして、市内外の応援の声とラッピングの費用300万円を集めま



「カープ号」（ラッピングトレイン）

した。カープ球団も全面協力し、車内には若手選手10人による応援ポスターが掲示され、3か月ごとに入れ替えています。

2021年11月28日から運行を開始し、当日は臨時列車が走り、沿線住民が旗を振って出迎えました。備後庄原駅で開催されたイベントには、庄原駅周辺まちづくり協議会やカープ応援隊も参加し、約400人が集まりました。カープ号は2023年3月までの運行予定でしたが、住民の熱意で本年秋のプロ野球シーズン終了まで延長されることとなっています。

・駅の魅力づくり

駅の魅力づくりも各地で行われているが、特徴的な取り組みを紹介します。

備後西城駅ではNPO法人西城町観光協会の事務長の岡崎優子さんを先頭に「鉄道があるからできることがある」と駅舎を事務所に活動を展開。EKINAKA（カフェ）、instagram・YouTube・

Twitterによる連日の発信、新そば祭り、レンタサイクルの貸し出し拠点などなど意欲的に取り組んでいます。地元の西城紫水高校の生徒との連携も多彩で、定期的な駅の清掃、駅構内へ庄原市のキャラクター「比婆ゴン」のペイントなど行い、高校生のより所にもなっています。

芸備線と木次線が接続する**備後落合駅**では、元国鉄機関士の永橋則夫さんが、ボランティアで乗り換えの案内や観光案内をおこなっています。昭和40年代まで駅関係者が100人以上働いていた全盛期の備後落合駅のジオラマを使った鉄道の歴史のリアルな説明も好評です。

備後庄原駅は、庄原市が2020年10月「庄原市交通交流施設」としてリニューアル。大正12年の開業当時の面影を残したレトロな雰囲気の人気です。庄原市と備北丘陵公園、口和郷土資料館などが協力して、ドライフラワーによる装飾、駅前イルミネーション、蓄音機コンサートなどを開催しました。交流施設は、市内各種団体が気軽に利用しています。「庄原駅周辺まちづくり協議会」が地元金融機関と協力して、JR西日本の許可を得てカレンダーを作成。協議会が500部作製し完売。地元信用金庫がポスター500部と隔月めくりカレンダー5,800部作製し、配布しました。

東城町の**内名駅**は、“秘境の駅”として有名。地元の住民組織「田森自治振興区」が、駅舎に缶バッジや駅スタンプを置き、来訪者にサービスするとともに、YouTubeによってさまざまな情報を発信しています。

（2）無人駅対策について

庄原市内の芸備線（14駅）・木次線（1駅）はすべて無人駅。「切符が買えないような駅ではよくない」と、庄原市が主要駅の備後庄原駅・西城駅・小奴可駅・東城駅に人的配置をすべく業務委託費（979万円）を出しています。委託を受けた業者や個人が券売や駅の管理、案内業務を行っています。備後庄原駅では新幹線の自由席・指定席の特急券も買え、備後西城駅と東城駅では自由席特急券が買えます。その他の駅でも住民団体が草刈りや駅の清掃など行う場合、JRの管理駅も含めて庄原市が財政的支援を行っています。

（3）生活交通としての利用促進

・市職員による活用促進

冒頭に述べたように、県立高校の生徒の通学手段として欠かせない芸備線ですが、不便なダイヤ編成の影響もあり、市民の生活交通として利用をいかにして促進するかが大きな課題になっています。2021年度から庄原市では、市職員による「芸備線利用促進デー」を設けています。目的は、芸備線沿線に居住する市職員が通勤に芸備線を利用することで、乗車人数の増加に繋げるとともに、職員が率先して取り組むことで、芸備線利用の機運を高め、市民や企業等へも利用を呼びかけ、利用の増大を図ることにあります。1回目は、2021年10月22日から12月27日のうち5回ほど行われました。エントリー数は56人、延べ利用者は172人、1日あたり34.4人が利用しました。

参加した市職員の主な声…「一過性でない継続的な取り組みが必要」「高校生の重要な移動手段だと分かった」「利用促進には情報発信がきわめて重要」「通勤・通学の利用はもとより、観光面など多様な利用促進策が必要」。

・市民グループ運賃助成

庄原市民を含む4人以上のグループが、芸備線・木次線の対象区間を利用する場合、対象経費の三分の二以内で、上限3万円の助成を行うものです。2021年度の実績は、交付金額108,000円（19件）、乗車人数は延べ276人でした。

（4）市外からの乗客の呼び込み

・庄原ライナーの運行

秋の行楽シーズンに、庄原市観光推進機構を中心に、広島駅を発着とする臨時列車（芸備線期間限定直通便）の運行。2021年は、10月23日から11月14日の土日祝に庄原駅から帝釈峡へ、11月20日～12月12日には備後落合駅を起点に木次線沿線散策を行いました。

2022年には、10月22日から12月11日までの土日祝の18日間運行。広島駅発を21年より早くして、庄原駅到着を2時間早い午前10時として、備北地域の観光をより楽しめるものに改善して行った。

今年度は、夏の庄原ライナーを7月22日から8月20日の土日・祝日の20日間、走らせました。初

日の22日の庄原ライナーウェルカムイベントには、たくさんの鉄道ファンや市民が集まりました。

参加者の声…「芸備線の車窓からの風景が良かった」「これまで日帰りができないので見送っていたが、今回参加できてよかった」「鉄道+貸し切りバスで観光地を巡ると分かった」「モデルコースの情報発信が必要」「駅周辺にカフェなどあればよい」。

・沿線地域と連携した市外からの乗客の呼び込み

2021年の秋には、上記臨時列車(庄原ライナー)運行開始日と合わせて、「庄原駅周辺地区まちづくり協議会」主催で庄原駅前フェスタを開催。花のまち庄原をイメージして、駅舎を花で飾り、鉄道ジオラマの展示、鉄道クラフト講座（JR西日本協力）、木次線・新見市紹介コーナーなどを設け、多くの来場者でにぎわいました。

備後落合駅でも利用、歓迎行事。地元の各種住民団体が出店し、名物“おでんうどん”などの飲食や物販でもてなしました。

11月23日には、庄原市・奥出雲町・新見市が連携し、県境鉄道サミットが八銚自治振興センターで開催され、3市町の特産のそばの食べ比べや各

地域の特産品の販売に地域住民が汗を流しました。

(5) 庄原市芸備線・木次線対策協議会

地域において重要な移動手段である芸備線・木次線が大きな岐路に立たされており、社会的財産である路線を失いかねないとして、2022年3月に「庄原市芸備線・木次線利用促進協議会」が設立されました。構成は、学識経験者、広島県、広島県立大学資源科学部、観光関係団体、市内の地域団体、庄原市などの委員9人である。鉄道の持つ広域ネットワークの特性や多様な価値を共有し、利用促進への市民の参加、生活交通としての利用促進のための取り組みを推進することで、利用客の増加に寄与することを目的としています。

2022年11月27日には、芸備線・木次線沿線3市町連携利用促進イベントとして、西城町で「ローカル線の未来を考えるシンポジウム」が和牛サミットと合わせて行われました。

本年9月23日には、市民団体「芸備線魅力創造プロジェクト」主催で、「芸備線・木次線の魅力を活かす方法を考えるシンポジウム」が、鉄道写真家・中井精也さんを招いて行われます。

3. 関係自治体議会の取り組み

(1) 沿線自治体議員連絡協議会の取り組み

2022年8月、広島県内の芸備線沿線自治体（広島市・安芸高田市・三次市・庄原市）の議員有志85人が、「芸備線沿線議員連絡協議会」を立ち上げました。私たち日本共産党議員も参加しています。様々な条件の違う自治体の議員が団結して、芸備線全体の存続を目的に活動する意義は大きい。

設立後、直ちに庄原市西城町の県立紫水高校生徒との懇談、11月には広島市安佐北区白木町で、住民50人との意見交換会を行いました。「便数が少ない」「トイレのない駅舎がある」「駅の近くに駐車場があればもっと利用しやすい」といった意見が出されました。

12月27日には、4市の市議9人が、国土交通省に国交相を訪ね全線存続を要請。23年3月24日には、協議会の代表7人がJR西日本中国統括本部広島支社に、通勤時間帯のダイヤの復活や車両増

など4項目の要請を行いました。庄原市議で協議会会長の徳永泰臣さんは、「関係自治体議員がまとまって動けば、大きな力になる。ネットワークでつながるローカル線、何としても守り抜きたい」と語っています。

本年8月21日には、第2回芸備線沿線議員連絡協議会総会が、安芸高田市で行われました。協議会の参加議員は、広島市36人、安芸高田市16人、三次市20人、庄原市16人の88人です。総会は、委任状も含めて66人の参加でした。岡山県や島根県の沿線議員関係者との意見交換会を開催することを新たに決めました。

(2) 日本共産党対策チームの取り組み

昨年10月6日の「赤旗」日刊紙に、「守れ日本の鉄道 存続へ地域ぐるみ」「高校生も観光協会も議員も行動」の記事が掲載され、全国にJR芸備

線・木次線の問題が発信されました。

その後、10月14日、日本共産党の地域鉄道再生チーム事務局長の仁比聡平参院議員を先頭にJR芸備線調査が行われ、大平元衆院議員と庄原市議団2人も参加しました。早朝7時半、備後庄原駅で高校生の利用状況を視察し、庄原市役所、庄原観光推進機構、芸備線沿線議員連絡協議会長と順次訪ね、懇談しました。

庄原市の担当部長は、「地域公共交通政策で、その条件を最大限生かして高校生や高齢者の交通手段を守ることは社会福祉政策と位置付けている」と明快に言われ、印象に残っています。「通勤時間帯の便がないので通勤に利用できない」「全駅にJRの職員はいない、ICカードリーダーもない田舎の駅のメリットは定期券か回数券のみ。その回数券が9月末で廃止された。JRからは報告のみ。4駅に職員を市費で配置してJRの売りに協力しているのに…」とJRに度々要請していることが語られました。

11月11日には、庄原の現地と衆院議員会館をオンラインで結び、国交省に要望書を提出し、国の

担当者に要請しました。内容は、①JRの芸備線や木次線の不採算区間のみを切り出して、“廃線か、地元負担か”の二者択一を迫るようなやり方は断じて認められない…。②鉄道事業者が届け出により事業や路線の廃止ができる現行の鉄道法の問題点を指摘する声は関係自治体などから上がっている。国として公の関与を強める方向での見直しを行うこと、の2点です。私の方からは、鉄道は住民の協力によって完成した歴史遺産であり、環境にやさしい輸送手段として将来にわたって存続させるよう、強く求めました。

12月26日には、日本共産党の提言「全国の鉄道網を維持・活性化し、未来に引き継ぐために」をもって、大平元衆院議員とともに、庄原市役所で担当部長・課長と懇談しました。「庄原市の考えと相通ずる部分が多く、提言の発表に敬意を表したい」「鉄道150年、来年が庄原に開通して100年の節目、全国的に注目を集め、影響も与えるので、広島県とも連携して、存続に力を入れたい」との感想が述べられました。

終わりに

全体を網羅した内容になっていませんが、庄原市での取り組みの一端を紹介しました。庄原市では、これまで市民生活課で対応していましたが、23年度からは「地域交通課」を独自に新設しました。将来の運行に注目の集まるJR芸備線・木次線に関する施策や、JR西日本との協議に重点的に対応するため、としています。

行政、住民団体、議員、市民が協力して、貴重な交通手段としての芸備線・木次線の存続にさらに力を入れていきます。

（たにぐち たかあき）



※『経済』7月号に掲載されたものに加筆

二葉山トンネル、何が問題か？

二葉山トンネルを考える市民の会代表 越智 秀二

1. はじめに

本来なら3年前に完成しているはずですが、未だに完成していない。6割ちょっとしか出来ていません（図1）。鳴り物入りで導入したトンネル掘削の超大型岩盤シールドマシンは60回以上故障しています。そして、工事地域の周辺では地盤の異常隆起や沈下も起こっています。ところが今年6月には「被害とは認識していない」と高速道路公社熊谷理事長の発言がありました。とんでもない発言です。

実際にはどうなのか。住民との約束事では、1.3ミリの沈下があったら工事中断、2.4ミリを超えたらマシンを止めて対策を練る。それでOKとなれば工事を再開する、ということになっていました。2.5ミリ以上（累積で11.2ミリ）の異常隆起が記録されていますが、沈下しているところもある。沈下が2.4ミリを超えたらマシンを止めるということ

でしたが、再開後は計測の基準値と方法を変えて、1.4ミリの沈下がゼロということにされました。ここから、1.2ミリの沈下が起これば、合計で2.6ミリですが、基準値を変えたため、マシンを止めなくても良くなったという変な設定になっています。

いろんな問題があります。騒音と振動、75デシベルを超えたらマシンを止める事になっていますが、計測の基準は公道上。公道では基準を超えていません。家の中ではかなりの騒音と振動があるけれど、「被害を与えたとは認識していない」と答弁しています。福木トンネル工事で異常沈下が起こり、住宅に多くの被害を与えた、その教訓を踏まえた工事といっていますが、そんなことはお構いなしです。そして追加の工事費用についても、私たちの見えないところで色んな画策が行われています。

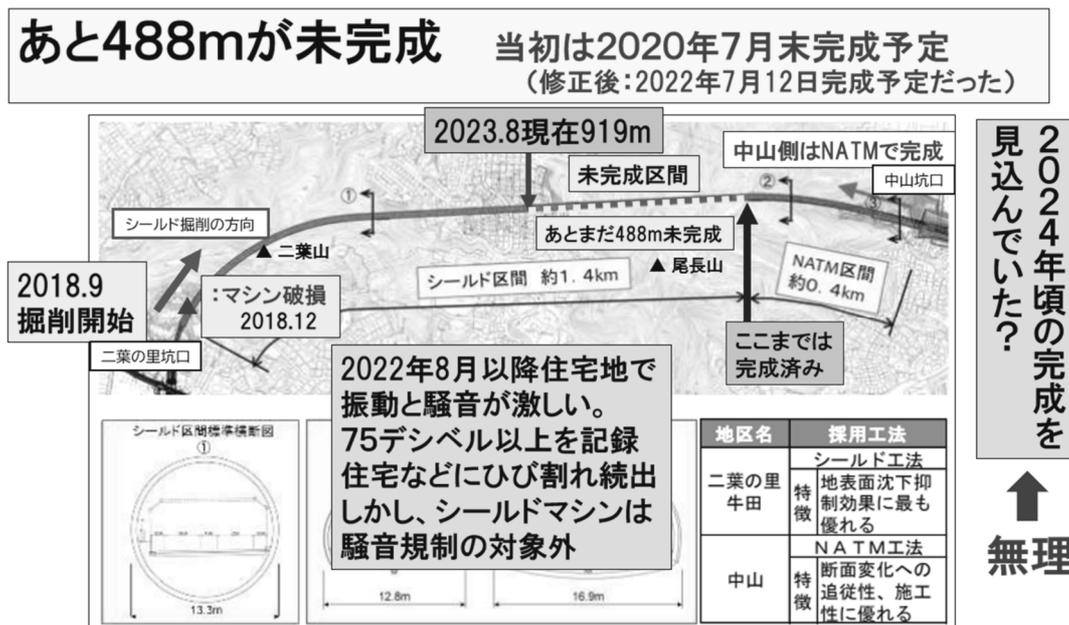


図1. 2023年8月25日現在の二葉山トンネル 完成のメドは立っていない。

2. 巨大欠陥マシンでの世界初の花崗岩掘削の無謀

今回のトンネル工事は、直径13.67メートルを超える巨大なシールドマシンで掘削しています。下から見上げれば3階建てのビルの高さ、そういうマシンを使用しています。二葉山は花崗岩で出来ています。花崗岩というのはとても硬い岩石です。2012年当時、花崗岩地帯を直径13メートルを超える岩盤シールドマシンで掘削して成功した事例はありませんでした。二葉山トンネル工事が始まる2018年の10年前、飛騨トンネル工事では直径12.84メートルのマシンが使われました。長さ11km、2005年開通予定が実際の完成は2012年。工事は難航し、1700メートルの山の下で最後は土圧によってマシンが潰れ、反対側からNATM工法（ダイナマイトや工具などで掘削し、ボルトを打ち込んで岩盤を固定する山岳トンネル工法）で掘削してマシンを掘り出してい

ます。こんな大きなマシン、12.84メートルでも失敗した、それよりもさらに大きなマシンをあてている。飛騨トンネルも、花崗岩、流紋岩、片麻岩、これらは石英が主要なとても固い岩石ですが、そこで失敗しているのに、さらに大きなマシンで花崗岩の二葉山にトンネルを掘るといふ工事でした。

成功した事例はあるのかという質問に、6月9日、公社は南京での成功事例を報告しました。しかしそこは花崗岩ではなく泥岩地帯でした。泥が固まった岩ですから弱い、お話になりません。

早い話が、なんと、この二葉山トンネル工事は、世界初の巨大マシンによって、とてつもなく硬い岩盤をくりぬく工事です。世界初、成功していれば世界一です。でも工期を3年以上オーバーしています。これは明らかな失敗例です。

3. 地質の軽視と異常なマシン導入、操作ミス

二葉山の花崗岩は、トンネル工事の予定地では石英の含有率が33%程度です。これから先の長尾山に行くと、そこは40%近くが石英になります。鉱物で一番硬いのはダイヤモンド、その次がサファイア、トパーズ、その次が石英です。つまり、一般的な岩石の中では一番硬いのが石英、つまり水晶です。それが3分の1以上。その次に硬いのが長石です。花崗岩は石英と長石で9割以上。もっと緻密で硬い岩石が尾長山にある。これからマシンでここに突っ込んでいくという計画です(図2)。

石英が25%を超えると、シールドマシンのカッターの摩耗度は急激に高くなります。中心部にはとりわけ頑丈なカッターを配置しなければならないのに、なぜか二葉山のマシンでは中心部に強度の弱い17インチカッターを配置、これが次々に壊れています。カッターのこれまでの交換頻度は1個あたり、20インチで3.1回なのに17インチは8.1回(2023年1月まで)。回転する掘削部分の中心に近いほど偏圧が高くなり、より強い強度が求められます。より強いカッターを配置すべきなのに反対のことをしている。これでは欠陥マシンとされてもしかたないでしょう。2018年の12月の故障で

壊れたカッターはすべて17インチでした。これだけ見ても、17インチのカッターではダメだと分かるのです。ですが、未だに公社は20インチのカッターと17インチのカッターの強度は同じだと回答しています。これは当事者が何もわかっていないか嘘をついているとしか考えられません。

それにしてもなぜここまでカッターが壊れるのでしょうか。二葉山の地質は堅硬（B級）な花崗岩で多数の節理（亀裂）が発達しています。マシンの圧力で、亀裂部分で岩盤が不規則に割れる。カッターは不規則な亀裂でできた硬い突起部に押しつけられた場合、大きな圧力を受けて破損しやすくなると専門家に聞きました。しかし公社は、二葉山トンネル裁判では「節理のない硬質な岩質」と主張していました。硬質で節理の多い二葉山の花崗岩の岩盤に通常の6～7メートル級のマシンの4倍の圧力で掘削したため、強度の弱いカッターが次々に破損。それでも掘り続けたためマシン自体を壊し、面板をえぐったのが、2018年12月のマシン損傷事故です。

マシンが住宅地の下にさしかかる時、公社は「靱性の強い（欠けにくい）カッターに変更しました」

と言いましたが、靱性の高いカッターは摩耗しやすくなります。それでさらに硬い岩盤を掘るとい

うのです。どうしようもない結果になるのではないのでしょうか。

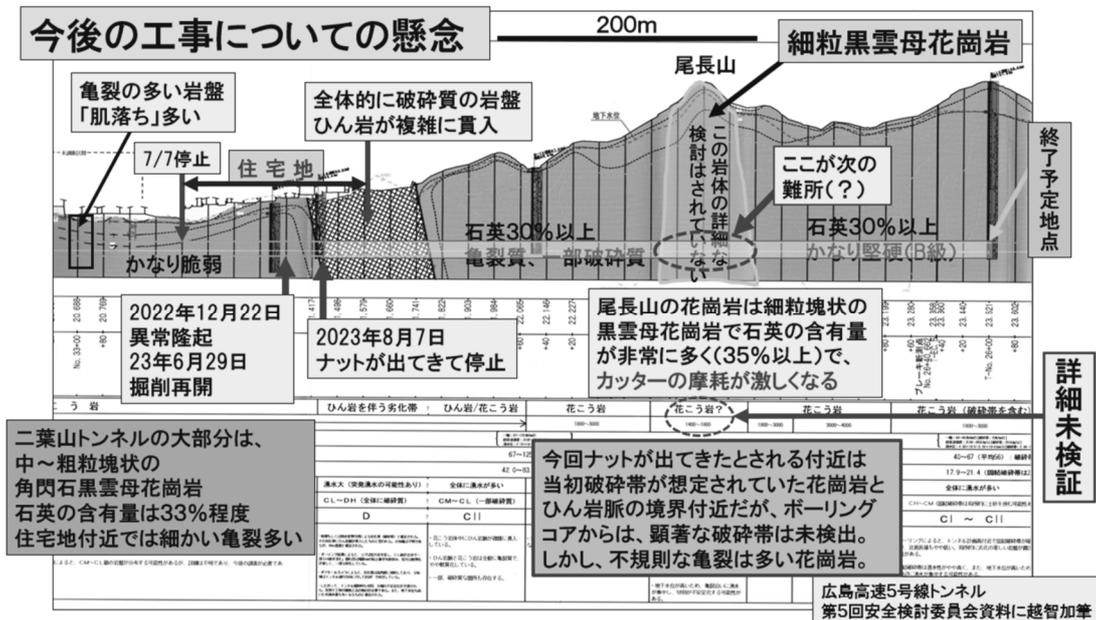


図 2. 昨年 5 月以降何度も故障やカッター損傷を起こしてマシンを停止。カッターの損傷は掘削開始以来42回。その他の器具損傷19回。12月22日には地表に異常隆起を起こしマシンを停止して原因調査。施工管理委員会は泥水圧などを低くする案を示し6月29日に掘削再開するも、8月7日にナットが出てきたことでマシンを停止。現在原因の調査中。それほど大きな振動が起きたのか？それとも初歩的ミス？今後の岩盤はこれまで以上に厳しく複雑な岩盤も。果たしてこのままで、あと488m掘れるのか？

4. 巨大ゼネコン、財界奉仕の政治姿勢

なぜここまでマシンによる掘削にこだわるのか。いろんな思惑が交錯していると思います。まず、この工事計画がそもそも巨大ゼネコンや財界奉仕の計画だということです。2007年の当初予算700億円のうち、320億円はヒロテックの移転補償費でした。ヒロテックの会長は、当時、県の商工会議所の会頭で岸田代議士、現在総理大臣の後援会長でした。ヒロテックの社屋、今はとても近代的な立派な社屋になっています。昔のヒロテックの工場・本社を知っている私には信じられないくらい立派な施設です。

掘り始めた2018年になって、87億円の「セグメント」費用が予算に入っていなかったとして追加契約をしました。シールド工法にはセグメントが不可欠、というか、シールドマシンで掘り抜いた壁面を覆うセグメント＝「シールド工事で用いられるプレキャストコンクリートによるトンネル覆工部材」はシールド工法の一部であり、セグメン

ト抜きシールド工事はあり得ません。セグメントがなければマシンによる素掘りのトンネルだけになります。セグメント抜き工事契約はあり得ないのに、後から費用を追加した。当初の事業費を低く見せるための操作としか思えません。

2019年3月、強引に追加部分を県議会・市議会です承して、さらに合計で347億円を次年度予算で追加しています。呉につなぐ道路工事を合体させたことによる大幅な予算増でした（今この路線の工事費が折からの物価高騰のあおりを受けて30億円の追加費用が必要になっているとされています。そのツケもまた追加されています）。

公共工事が当初予算以上に費用がかさみ、予算が次々に積み上げられていく、ゼネコン言いなりに公費を支出する、議会はそれをすべて了承する。河井疑惑でカネを受け取って何が悪いと居直っている議員が、それらに関わっている。公共事業のウラの構造が浮き彫りになっています。

2022年12月に、大林組等のJVが国の建設工事紛争審査会に「想定以上に硬い岩」なので工事費がかさむ、追加の費用が必要だと調停申請を出しています。この調停の審査は非公開です。この年

の9月まで「硬い岩はなかった」、これが公社の公式見解だったのに、コロリと変わっています。この問題も根っこは同じなのではないでしょうか。

5. 「専門家」が本来の役割を果たさない「村度」工事

こういう問題に対して「施工管理委員会」がチェックすることになっています。8人の専門家、有名な先生方に審議していただくことになっています。ところが8人の委員のうち4人は、陥没事故を起こした東京の外環道の委員です。しかも委員長は昨年まで統一協会から資金が出ている「日韓トンネル研究会」の役員でした。このような委員にまかせていていいのでしょうか？

たびたびマシンが故障し、工事が中断するのに、誰も17インチカッターの問題を指摘しない、花崗岩をシールドマシンで掘り抜く過去に例の無い工事の是非、工事による周辺宅地の土地の異常隆起・沈下、騒音や振動、住宅の被害についても指摘しない。さらに、公共工事の事業費増額など、問題は枚挙にいとまがありません。

事実、紙屋町地下街・シャレオ工事は、391億円

が480億円に、福木トンネル工事は見舞金も含め、ほぼ倍額に。二葉山トンネル・高速5号線事業は700億円が1500億円、1号線から5号線までの広島高速道路工事はトータルで6660億円ほどといわれています。さらに工期が大幅に遅れています。本来なら工事事業者への賠償金請求があってもおかしくない。1日あたり300万円（?）、それをどうするのか。施工管理委員会から、これらの問題への指摘も問題提起もありません。

つまり「専門家」が本来の役割をまともに果たしていない、それに関わる行政職員にも問題を指摘する姿勢や能力がない、すべて事業者・ゼネコンの言いなりになっている。日本の公共工事・土木建設事業の歪んだ問題があると言わざるを得ません。

6. 「ナットはずれ」は初歩的ミスではないのか？

6月29日から再掘進を始めたトンネル工事でしたが、8月7日にはナットが出てくる（はずれた）という「故障」を起こし、また止まってしまいました。8月21日に確認した段階でも、まだ原因は不明とのことで、まだしばらく掘削できない状態になっています。

「ナットはずれ」はこれまでの60回を超える故障・損傷事故の中でもはじめてのできごとです。住民の方の話では、6月からの再開後は「わりと静かだった」とのことであり、大きな振動はなかった状態と考えられます。であるなら、なぜはずれたのでしょうか。ナットの締め方が十分でなかったとしたら、それは「人為的初歩的ミス」としかいいようがありません。どうなのでしょう？

2012年2月に起きた水島コンビナートでのシールドトンネル工事での事故の報告書では、近年の現場技術者の技術力の低下が指摘されていました。ここもそうした問題があるのではないのでしょうか？ 実際、2018年12月の二葉山トンネルの事故もカッターの破片が出ているにもかかわらずマシンを岩盤に押し付けたというオペレーターの初歩的ミスでした。ほんとうに大丈夫なのでしょう。あらためて徹底的な検証が必要といえます。

（おち しゅうじ）

この原稿は、2023年7月21日の「県政報告会・民主県政の会総会」での報告をもとに加筆修正したものです。

月間ニュース

2023年8月

月間ニュースは中国新聞デジタルの地域・写真ニュースをそのまま引用しています。

《 平和・核廃絶・基地 》

原爆孤児や被爆者の渡米治療、支えた市民の姿克明に ヒロシマ・ピース・センター資料見つかる 2023/8/4

被爆地広島で1950年に発足し、原爆孤児と海外の支援者を結ぶ「精神養子」や被爆女性の渡米治療を進めた財団法人ヒロシマ・ピース・センターの草創期の資料が見つかった。

平和大通り「公園化」、にぎわいづくりと「慰霊」どう調和？ 広島市が9月にワークショップ開始 2023/8/26

広島市中心部を東西に貫く平和大通りの緑地帯を公園化する計画で、市は9月、利活用のルール案を考えてもらおうと、市民たちのワークショップを始める。

《 農業・経済・雇用 》

種子の保存策を要望 ジーンバンク廃止で農業者団体が広島県に申し入れ 2023/8/2

野菜や水稲の種子を保存し、農家に無料で貸し出す広島県内の農業ジーンバンク事業が3月末で廃止されたのを受け、県内の農業者でつくる市民団体「広島のタネの未来を考える会」が2日、県に種子の保存と活用を求める申し入れ書を提出した。

広島県の最低賃金、40円引き上げを答申 アップは3年連続 2023/8/4

広島地方最低賃金審議会は4日、広島県の最低賃金を40円引き上げて970円にするよう、広島労働局の釜石英雄局長に答申した。

君田温泉など運営の三セクが解散決定 三次で臨時株主総会 2施設営業は10月1日まで 2023/8/19

広島県三次市君田町の君田温泉森の泉や隣接の「はらみちを美術館」を指定管理する市の第三セクター「君田トエンティワン」は19日、臨時株主総会を開き、経営難のため法人組織の解散を決めた。

小規模農家の「グループ営農」に経費補助 広島県東広島市 共同耕作で効率化促す 2023/8/29

広島県東広島市は本年度、小規模農家が共同で耕

作に当たる「グループ営農」を後押しするため、新たな支援制度を始めた。

増えるニホンジカ、農作物や花木の食害深刻 広島市安佐北区で頭抱える住民 2023/8/31

広島市安佐北区で野生のニホンジカの増加が深刻化している。

《 教育・文化・スポーツ 》

峠三吉の未公開原稿見つかる 「叙事詩広島」素案か 2023/8/2

原爆詩人峠三吉（1917～53年）が、晩年に書き残した未公開の直筆原稿が見つかった。

呉市が学童保育と放課後子供教室を一体化、2校でモデル事業 充実・拡大に課題も 2023/8/8

広島県呉市は本年度から、共働きやひとり親家庭が対象の放課後児童クラブ（学童保育）と、その入会要件を満たさない児童向けの放課後子供教室を一体的に運営する事業に取り組んでいる。

公立小中学校の耐震化率99.7% 広島県内4月1日現在、文部科学省調査 2023/8/8

文部科学省が8日に公表した公立学校の耐震改修状況の調査（4月1日現在）で、広島県内の小中学校全2213棟の耐震化率は前年度比0.2ポイント増の99.7%だった。

生徒募集停止の方針を撤回へ 広島県教委、湯来南・上下・西城紫水の3高校巡り 2023/8/18

広島県教委が統廃合の検討対象としている湯来南（広島市佐伯区）上下（府中市）西城紫水（庄原市）の県立高3校を巡り、2024年春の入学者が27人未満になれば生徒募集を停止するとしていた方針を撤回する方向で調整していることが18日、分かった。

尾道市中心部の学校再編、反対ある中でも計画通り推進 9月に予算案議会提出へ 2023/8/18

広島県尾道市教委の宮本佳宏教育長は18日、昨年11月に示した市中心部の3小学校と2中学校の再編案を計画通りに進めると表明した。

広島市佐伯区の小中5校統合、新校舎候補地2カ所に絞る 湯来南運動広場と湯来運動広場 2023/8/25

広島市佐伯区湯来地域の小中学校5校を統合して小中一貫教育校の設立を目指す「設置検討会議」は、新校舎の候補地を湯来南運動広場と湯来運動広場の2カ所に絞った。

《 子ども・医療・介護 》

介護現場の外国人確保へ、東広島市が事業者に補助生活サポートや日本語学習の費用 2023/8/21

東広島市は本年度、人手不足にあえぐ介護現場で外国人の担い手を増やすため、雇用する介護事業者への新たな支援に乗り出した。

広島市の児童虐待相談が過去最多「SOS感じたら、ためらわないで」 2023/8/23

広島市児童相談所（東区）が2022年度に受けた児童虐待の相談件数は、前年度比で127件増の2594件となり、2年連続で過去最多を更新した。

保育士に就職支援金、常勤に20万円、非常勤にも10万円 福山市 2023/8/28

広島県福山市は28日、10月から市内の保育施設で働き始める保育士たちを対象に就職支援金を支給すると発表した。

《 住宅・交通・まちづくり 》

芸備線の再構築協議会設置へ JR西日本・広島県・岡山県の一問一答 2023/8/2

JR芸備線備後庄原一備中神代間（庄原市、新見市）についてJR西日本は、10月に施行される関連法に基づく再構築協議会の設置を国に要請する意向を示した。

商工センター地区再整備へ、官民の検討会が初会合 2023/8/4

広島市西区の商工センター地区の再整備に向け、市は4日、官民による検討会の初会合を広島サンプラザ（西区）で開いた。

旧郷野小、地元有志が一括購入へ 教室など賃貸、まちづくり拠点に活用 安芸高田市吉田町 2023/8/7

広島県安芸高田市吉田町桂に立つ築約90年の木造校舎の旧郷野小について、利活用を通して存続を目指す地元有志を中心とした「郷野の郷（さと）準備委員会」が、市側の意向に沿って土地と建物を買取る方針を決めた。

井原鉄道、利用者延べ2600万人達成 開業から24年7カ月 2023/8/15

第三セクター井原鉄道（岡山県井原市）が運営する井原線の利用者が15日、延べ2600万人となった。

放置艇、全国で5万6000隻 広島県は8359隻で全国ワースト 2022年度 2023/8/27

全国の港や河川で自治体の許可を得ずに係留、保管されているプレジャーボート「放置艇」が2022年度に約5万6千隻あったことが26日、政府の調査で分かった。

高齢化進むタクシードライバー 広島県内65歳以上が52% 若手確保へ一定期間の固定給支給も 2023/8/30

全国的にタクシードライバーの高齢化が進む中、広島県内では65歳以上が半数を超え、各社とも若手の確保が急務になっている。

広島高速5号、投資効果ぎりぎりの水準に 事業費増加で費用対効果の指標下がる見通し 2023/8/31

広島県と広島市が出資する広島高速道路公社（東区）による広島高速5号（同）の建設で、事業の費用対効果を数値化した指標「費用便益比」が1.02となり、従来より0.08下がる見通しであることが31日、分かった。

《 一般・その他 》

大竹市議選、定数16に当選は15人 16番目の無所属現職、法定得票数に届かず落選 2023/8/6

広島県大竹市議選（定数16）は6日投開票され、新たな議員15人が決まった。

三原の産廃場内の排水、基準適合 広島県が検査処分場外は参考基準超す 2023/8/18

広島県三原市本郷町南方の民間の産業廃棄物最終処分場を巡り、広島県は18日、処分場内の排水を検査した結果、法定の水質基準に適合していたと明らかにした。

マイナカード返納急増216件 広島市5～7月過半数は不信感が理由 2023/8/24

広島市は24日、5～7月にマイナンバーカードの自主返納が216件あり、うち過半数の115件はカードへの不信感など否定的な理由だったと明らかにした。

福山市の311施設、日本管財が一括管理へ 職員負担やコストを軽減 2023/8/25

広島県福山市は2024年度から公共施設の管理を一括して委託する民間事業者について、ビル管理大手の日本管財（東京）を優先交渉権者に選んだ。

やぶにらみ「行政」談義は今月号は休みます。

10月の行事

2	月	広島生活保護裁判 判決		広島地裁302法廷
4	水	伊方原発運転差止広島裁判第39回弁論 原告証人避難者2人		広島地裁
6	金	国民大運動広島実行委 総会		ロードビル
13	金	広島市民劇場10月例会 加藤健一事務所「サンシャイン・ボーイズ」	18:30	安佐南区民文化センター
		第2次岩国爆音訴訟第3回口頭弁論		山口地裁岩国支部
14	土	広島市民劇場10月例会 加藤健一事務所「サンシャイン・ボーイズ」	14:00	安佐南区民文化センター
		広島県高齢者大会 補聴器制度運動交流		生協けんこうプラザ
15	日	広島自治労連第34回定期大会	13:00	広島市国際青年会館
16	月	広島市民劇場10月例会 加藤健一事務所「サンシャイン・ボーイズ」	18:30	アステールプラザ（大）
17	火	広島市民劇場10月例会 加藤健一事務所「サンシャイン・ボーイズ」	13:00	アステールプラザ（大）
		ヒロシマ総がかり行動実行委 67回世話人会		オンライン会議
18	水	三原九条の会 敵基地攻撃とは 松岡幸輝	18:30	
19	木	ひろしま音鑑189回例会 レ・ヴァン・ロマンティーク・トウキョウ		県民文化センター
21	土	第九条の会・はつかいち総会&講演 僧侶が語る反戦平和 小武正教	13:30	廿日市市民活動センター
		ヒロシマ革新懇第43総会&記念講演 農民連 長谷川敏郎		会場未定
23	月	後河内労災認定裁判控訴審第1回口頭弁論		広島高裁202法廷

事務局雑感

今年6月、2022年の自殺動機に奨学金返済と判明したのが10名という報道がありました。これは氷山の一角です。ある学生は、「奨学金という借金に怯えたくない」と話していました。別の学生は、「奨学金を借りることで、将来を食いつぶしている感覚」と話していました。学生たちは、学んでいる間も大きな負担を感じています。

国の修学支援制度は、大変枠が狭く奨学金を必要とする学生に行き渡るものではありません。それでも学びたいと願う学生たちを、社会の担い手として支えられる自治体こそ、若者が安心して住み続けられる街だと思えます。こうした下で、今、学生や若者を支えるために自治体独自の給付型奨学金制度や奨学金返済支援制度が全国で広がっています。しかし、広島県も広島市も、自治体独自の制度は設けないと言いつつ、ありません。

広島県・市は、若者の人口流出が全国トップクラスです。企業誘致や大型開発に頼っていても人口は流出しています。広島に定住してもらうためにも、学生の学びを支え、若者の生活を支える本気の若者支援を行い、希望ある街づくりを行うときです。（た）

表紙の写真「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑（1971年8月4日建立）」＝橋本和正さん

銘文「太き骨は先生ならむ そのそばに ちいさきあたまの骨 あつまれり」（正田 篠枝）
しょうだ しのお